

令和2年第2回岡崎市社会教育審議会会議録

日 時	令和2年7月2日(木) 午前10時～午前11時15分		
会 場	市役所西庁舎7階701号室		
出席委員	石川 春次	(元岡崎市立中学校長)	会長
	野田 光宏	(元岡崎市立中学校長)	副会長
	佐々木 公麿	(岡崎私立幼稚園協会会長)	
	小林 大祐	(岡崎市PTA連絡協議会顧問)	
	水野 達	(岡崎市学区社会教育委員長連絡協議会会長)	
	加納 寛樹	(岡崎市子ども会育成者連絡協議会理事)	
	荻野 嘉美	(千万町・木下ふるさとづくり委員会委員長)	
	福田 貴子	(社会教育指導員)	
	浅岡 悦子	(一般公募)	
欠席委員	赤崎 類子	(岡崎市小中学校校長会)	
	葉山 栄子	(名古屋学芸大学参与)	
事務局	社会教育課長	中村、副課長	柴田
	社会教育係	大村、中村	

- 議 事
- 1 あいさつ
 - 2 議題
 - (1) 社会教育関係団体への補助金について
 - (2) 社会教育審議会の年間活動計画について
 - (3) 事例発表に向けて

議 事 録

- (1) 社会教育関係団体への補助金について
 - ・社会教育関係団体への補助金について事務局より説明を行った。
- (2) 社会教育審議会の年間活動計画について
 - ・年間活動計画について、事務局より説明を行った。
- (3) 事例発表に向けて
 - ・令和2年度に県社連西三河支部での事例発表のテーマは「地域社会での社会教育の活性化について」とするため、地域の社会教育団体である「学区社会教育委員会」について調査研究を行い、そのまとめについて発表を行う。発表資料について事務局より説明を行った。

- 委員：学区社会教育委員会は、地域に合った活動をしているのでと取り上げてもらっていいと思う。岡崎市以外の市町が参考にしてもらえればありがたいと思う。今、活動が難しいが、社会教育の重要性、学校だけでない、家庭だけでない地域との関わりが大切な時期だと思う。
- 委員：学校の負担が大きいという資料があったが、現役時代を思い浮かべると、確かに負担になる部分もあるが、いろいろな学区のことが分かって勉強になり育ててもらった。学校にとっても利点のほうに入ると思う。学区や、学区社会教育委員会の活動があつて学校教育が成り立っていると痛感してきたので、岡崎の学区社会教育委員会の活動を改めてすばらしいと思った。また上地学区の中で、とても良いと思うのはスポーツ少年団の活動で、学校現場は部活動の活動がとても大きな課題になっていて学区で部活動を応援してもらえるというのはとても大きい。事例としてとてもよい。
- 委員：旧額田町時代は、学区社会教育委員会はなく、合併してから作られたようである。運動会、学芸会等、額田地区は地域ぐるみで昔からやっているの、学区社会教育委員会ができてその体制でやっている。額田は学区社会教育委員会の活動の担い手がなかなかないので、学校と地域の人に支えられて活動を行っていくことが意味のある事と思う。
- 委員：当園は井田小学校区になるので運動会は学区と共催してやっているところに参加させてもらっている。数年前から学区ふれあい文化祭という形で小学校を会場にして学区民の作品から幼稚園、保育園の作品を展示し、また会場に小学校のPTAの方が食品バザーを開いて集える形をとっている。そういう取り組みが学区社会教育委員会の取組かなと。
- もう一つの園は、岩津小学校区にあり、運動会があると町内のそれぞれのチームを作り、障害物リレーでは、青年団、消防団等組織ごとのチームを作って参加している。小学校という場所を会場に各種団体が集う取り組みを觀させてもらっている。敬老会にもご招待があるので、参加するとアトラクションとして岩津中学校の吹奏楽の演奏や、小学校の音楽部の演奏、詩吟の発表等で集う形で取り組んでいて、こういう姿が地域での社会教育活動かなと説明を聞きながら感じた。
- 上地も常磐東も素晴らしい活動をしている。課題としては、学区社会教育委員会もそうだが、幼稚園での諸行事が全て中止となっている。今まで実績があったものがコロナの関係で制限があり、今後コロナが終息ではなくて何年も続いた場合や、新たなインフルエンザ感染症の発生の可能性が続くことを考えるとそれぞれの社会教育活動団体が今後どのようなアクションをしていくかという事が重要である。中止を受け入れるだけではなく、何が必要なのか、今までの取組をすべて白紙に考えてスタートしなければと思う。組織はあるけど何

ができるのというのが一番大事な部分と感じた。

委員：羽根学区は地域の方が元気で、三位一体、学校、家庭、地域の連携という事をずっとうたいながらやってきた。子供が住みやすい、安心安全な環境を考えると地域がしっかりしていないといけないと感じる。学区の社会教育委員会の総会に出席し、意見等発言させてもらった。

地域の活動、運動等非常に元気がある。今後も三位一体で続けていってほしい。課題としては昨今、働き方改革等で社会教育委員さんのなり手がなく、人数も少なくなってしわ寄せがきている。少子化もあり、今後、行事等選定し、若者を取り込んでいくことが必要と肌で感じている。

委員：学区社会教育委員会の利点は、決定事項が早いところだと思う。地域の子ども育成会の会長、町の総代が学区社会教育委員会に入っていて、少子化で隣の三つの町と行事を一緒にするというのを相談するとすぐに動いて子ども会に補助金を出すということがすぐに決まった。他の所属する団体においても学校においても学区社会教育委員会は頼れる地域の団体になっていると思う。地域によって温度差があるので、どの温度に合わせるのかが課題。学区社会教育委員会の中の組織同士をうまく結びつけることができればと思う。

委員：人として磨いていく、高める事、人間というのは社会である、そこで生きていくことができる者にするために、子ども会にしても学区の学区社会教育委員会にしても個を高めるための活動ではないかと思う。社会を構成するより豊かな人間は、人と人との間で繋がれる。自分はどうあるべきか、家庭がどうあるべきかと思っている。それぞれの地域の特性、それぞれの考えの人が社会を構成している。今回、もし発表するとしたら学区の社会教育委員会がなぜ必要なのかという必然性、理論的な部分をより伝えていく。そのほうが聞くほうも根本に残っていく。常磐東の防災活動は必然性がある。地域に危険なところがあり、過疎化も進んでいる。だから連携が必要である。上地は新しい街で神社もない、だから、学校の中でお祭りをやる、必然性が出てくる。だから、学区はまとまれる。そこから繋げていこう、発展させていこうになるのではないかと思う。

・次回審議会は11月に開催予定